

設立 50 周年記念誌

読谷村商工会



ユタサアル フンシ
ゆたさある 風水

マサル チムグクル
優る 肝心

サチフクル ハナヤ
咲き誇る 文化や

ガンジュウヌ シマ
健康の 村

《読谷村の指針》





商工会のマーク



会員章



商工会館全景

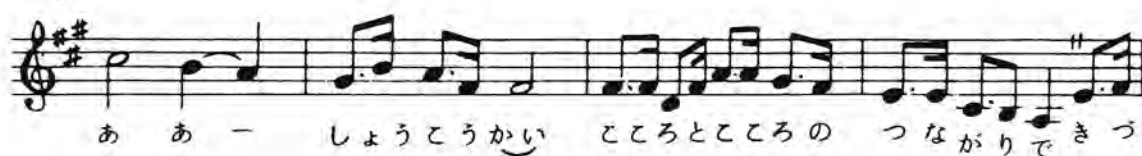
上のマークは商工会のもので、全国各地の商工会はこのマークで統一されています。

中央のSは商業を表し、周囲の歯車が工業を表すように図案化したもので、調和と繁栄を象徴しています。

商工会の歌

作詞 三浦 康照

作曲 山本文晴



商工会の歌

一、 明るい暮しの 笑顔から
若い文化の花も咲く
郷土の誇り 郷土の生命
ああ商工会
心と心のつながりで
築いてゆこう 希望の街を

二、 いばらの道でも お互いに
明日を踏みしめ 燃やす夢
大きな力 大きな組織
ああ商工会
手を取り 皆んなで 新しい
理想に向って進もう 今日

三、 未来を見つめる 努力には
風も はこぶよ 幸せを
皆んなの栄え 皆んなで作る
ああ商工会
中小企業の礎は
住みよい街と 心の憩い

商工会青年部の歌

—明日をつくる友だち—

作詞 加藤日出男

作曲 米山 正夫

Folk Song



なに かが - なにか が - つよ くもとめられて いる - そ-



の - なにか に ゆ - め - をかけ て とわ



に あるきつづ ける - とわ に あるきつづ ける - われ



ら 商 - 工 - 会 - - セ い - ねん ぶ

商工会青年部の歌

明日をつくる友だち

一、何かが 何かが

つよく 求められている

その何かに 夢をかけて

永遠に 歩きつづける

われら 商工会青年部

二、それでも それでも

君は なぜかあきらめず

この時代の 波に向う

そして君と ほほえむ

われら 商工会青年部

三、幾度も 幾度も

夢をくだく カベがある

だが終りは、いつも来ない

明日をつくる 友だち

われら 商工会青年部

商工会女性部の歌

作詞:高村 俊広

作曲:船村 徹

明るく



おんなのえがお うるわしく - きぼうに



もえる あさぼらけ - やさしいところを



もちよって - すみよいり そうのまちづく



り - しょうこうかいの じよせいぶは -



きよく あかるく きょうどのほ くり -

商工会女性部の歌

一、
おんな
女の笑顔 麗しく

希望に燃える 朝ぼらけ
やさしい心を もち寄って
住みよい 理想の街づくり
商工会の女性部は
清く明るく 郷土の誇り

二、
おんな まこと つつま
女の誠 儉しく

豊に知識 磨きあげ
みづからお客の 身になって
幸せ届ける 店の花
商工会の女性部は
清く明るく 郷土の誇り

三、
おんな あたたか
女の願い 暖かく

村から町へ 日のひかり
今日も働く 喜びが
みんなの職場に 虹となる
商工会の女性部は
清く明るく 郷土の誇り

目次

準備中

準備中

商工会基本理念

○すべては会員のために

商工会は地域に根ざした商工業者の自主的な組織として設立され、会員企業の発展を支援することを使命としている。本会並びに商工会は組織を挙げて巡回訪問を強化することにより、会員ニーズを把握し、新たなサービスの創出をはじめ、会員に対し適切かつ効果的な支援を実施する。併せて専門家・高度化する会員ニーズに対応するため、商工会職員の資質向上対策を推進し、更なる会員サービスの向上を目指す。

○地域振興の主役であり続けるために

商工会は地域活性化の主導的な役割を担っている。地域産業の育成はもとより、防犯・防災活動、高齢者等地域住民の生活不便の解消などを目的としたコミュニティ維持活動や、地域の活力再生に資するまちづくりを積極的に推進する。



記念誌発刊のことば

読谷村商工会

会長 仲宗根 朝治

会員の皆様におかれましては、日頃より本会の事業推進、並びに組織運営に多大なるご支援とご協力を頂き、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本会は昭和48年に創立総会を開催し、翌年1月10日に法人設立登記が行われ、地域の経済発展と活性化を図ることを目的として設立され、これまで地域経済の振興に貢献するため『読谷村商工会地域ビジョン』を策定し「むらおこし事業」を開始、「新交易時代の文化とロマンスの里」をキャッチフレーズに、紅いもの特産品開発が始まり、現在の主力産業へと発展してきました。

また、人材育成を目的に「ユンタンザむらおこし塾」を開設、その後も本会の飛躍的發展と地域振興の先進力になることの決意として景勝地残波岬に「泰期像」を建立しました。その後は『泰期活用プロジェクト』として「よみたん夜あかりスタンプラリー」を開催、現在も村内外からの集客イベントとして定着しております。

また、50周年を迎えた今年度は記念式典祝賀会やタイムカプセルの開扉並びに埋設、更にチャリティーパークゴルフ大会、また設立50周年記念事業記念誌も発行致します。

今後は、新たな指針としたい健康経営については、令和3年に読谷村、協会けんぽ、商工会の三者で締結した「読谷村働き盛り世代の健康づくり推進に関する包括的連携協定」を基軸に、沖縄県指定第1号の『うちなー健康経営推進団体』として、会員事業所の代表者のみならず従業員やその家族までの健康を財産とする事が経営の継続となり、それを含め商工会の務めとして推進していきたいと思っております。

これまで50年、本会の活動にご支援、ご協力を賜りました国、県、本村当局を初め、沖縄県商工会連合会など関係者の皆様、そして何よりも会員の皆様に心より感謝を申し上げます。

今後も、商工会の活動理念であります『すべては会員のために！』をモットーに、経営支援の強化と、相談が出来る窓口、一層の会員サービスの向上を目指してまいります。

そして、村行政はもとより関係機関との連携をより密にして、協働の地域づくりの一役として、本村経済の活性化に役職員一丸となって取組んでいきたいと思っておりますので、これからも本会への変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりましたが、会員皆様方とお読み頂いた貴殿の限りないご繁栄と、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

これからも、未来に向かって想い合ち チバリマショー！



祝 辞

読谷村長
石嶺 傳實

読谷村商工会が設立50周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されましたことに心からお祝い申し上げます。

この半世紀にわたる旅路は、数えきれない挑戦と成果の歴史であったことでしょう。1973年に始まった貴会の歩みは、地域経済の発展と共に、多くの変遷を経験してきました。

商工会は、中小企業への経営支援という基本的な役割を超え、地元産業の活性化や発展に多大なる貢献をされてきました。特に、地域特産の紅イモを活用した新商品の開発や、水産加工品の生産・販売に力を入れ、読谷ブランドの確立に尽力されてきたことは、高く評価されるべき功績です。これらの成果は、安田慶文氏を初代会長とする歴代の会長たち、そして会員の皆様の献身的な努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

過去50年間は、沖縄経済にとって多くの変革期でありました。特に本土復帰後のドルから円への切り替えは、経済的混乱をもたらし、県民生活に大きな影響を与えました。しかし、そのような厳しい時期にも、商工会は村内の中小企業の経営を支え、共に成長を促進するための中心的役割を果たしてきました。今日の読谷村経済の礎を築かれたことは、非常に重要な功績であり、今後とも村の経済活動に刺激を与え、発展に寄与していただきたいと期待しています。

村としても、これまでの成果を大切にしつつ、新たな創造と発展に向けて取り組んでまいります。読谷村は「日本一人口の多い村」としての特性を生かし、特産品や観光PRを通じて経済効果を引き出すことを目指しています。これにより、老若男女を問わず、誰もが住みやすい村を実現するためのさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、読谷村商工会のさらなる発展と、関係者の皆様方の健康と繁栄を心より祈念申し上げ、祝辞といたします。この大切な節目に、商工会が新たな飛躍を遂げ、読谷村のさらなる輝きを世界に発信していただくことを願っております。



祝 辞

読谷村議会
議長 伊波 篤

この度、「読谷村商工会 設立 50 周年 記念誌」が発刊されるにあたり、読谷村議会を代表して、お祝いの言葉を申し上げます。

読谷村商工会におかれましては昭和 49（1974）年 1月に設立されて以来、地域商工業の改善を図るとともに社会的・文化的な側面においても積極的に貢献し、住みよい魅力あふれる地域づくりや読谷村の商工業の発展に大きくご尽力してこられました。歴代会長をはじめとする役職員の皆様のご苦勞に対し深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

また、本誌の発刊にあたっては、半世紀もの長きにわたり培ってきた活動の記録・編集にご尽力くださった皆様、ご協力賜りました関係者の皆様に心より感謝の念を述べたいと思います。

これまで読谷村商工会が一丸となり進めてきた「経営支援活動」・「地域振興活動」により、読谷村で生活する住民と行政や諸団体との連携により「地域づくり」を具現化させてきた成果は高く評価するものであります。

わが村「読谷村」は、平成 26 年 1月に「日本一人口の多い村」となり、それを契機として人口だけでなく、健康・教育・文化・スポーツ・産業・経済と全てが名実とともに「日本一のむら」となるよう、行政当局と商工会が連携をより密にし、読谷村の更なる発展と村民の福祉増進に大きく寄与するよう前進して参らねばなりません。財政・産業の発展と豊かな暮らしをめざし、老若男女を問わず誰もが住みやすい読谷村実現の為、更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも商工会と行政が密接なつながりを培っていくことにより、複雑多岐に亘り多様化している商工業の振興、その経営の近代化、中小企業の指導育成、企業誘致、消費流通対策等さまざまな施策は大きく前進するものと思慮されます。長く続いたコロナ禍、日常が戻りつつあることを実感しますが、円安、物価高、原油の高騰からくる村内経済に与える影響は看過できません。読谷村議会としても、商工会の現状を把握し連携できるよう尽力してまいります。

ここに「読谷村商工会設立 50 周年記念誌」の発刊を通して会員の総意を結集し、従来にも倍する活動の糧、指針とすることは最大の敬意を表するものであります。

結びに、商工会の各種事業の継続及び成長が読谷村の発展になるものと信じ、今後益々の隆盛と読谷村商工会の役職員、会員及び関係者の皆様のご多幸を祈念申し上げ、祝辞と致します。



祝 辞

沖縄県商工会連合会
会長 米須 義明

このたび、読谷村商工会が設立 50 周年を迎えられ、ここに「読谷村商工会 50 周年記念誌」を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

読谷村商工会は、地域商工業者の代表として、常に先頭に立って多くの困難に立ち向かい、挑戦を続けてこられました。

歴代会長、役職員、青年部・女性部の皆様ならびに商工会運営に関わっていただいた多くの皆様のご尽力に対し、衷心より敬意を表します。

これまで読谷村商工会は、むらおこし事業などの地域振興事業や、商工業者が抱える諸課題の解決に向けた取り組み等、多くの事業者の事業継続と雇用維持に貢献されております。

また、「よみたん夜あかりプロジェクト」や「人材育成事業」など、諸事業にも積極的に取り組まれ、大きな成果を挙げております。

さらに、「うちなー健康経営」の推進といった、県内でも先駆的な事業への取り組みは、地域経済社会の発展の為、大きな期待が寄せられているところであります。

読谷村商工会の様々な取り組みは、地域の中心的役割を果たし、高い評価と信頼を得ており、今後も、さらなる活躍が期待されています。

さて、県内景況は、長期化するコロナ禍の影響に加え、混沌とする国際情勢に伴う急激な円安、エネルギー・原材料価格の高騰など、地域の中小・小規模事業者にとって厳しい状況が続いております。

また、インボイス制度やDXの推進、働き方改革や脱炭素社会への転換、事業承継の加速化など、急速な事業環境変化への対応が差し迫っております。

沖縄県商工会連合会では、今後の社会情勢を見据えて、国や県、地域行政が打ち出す支援施策に迅速に対応し、個々の事業者に寄り添った伴走型支援活動を商工会との連携を強化しながら取り組んでまいります。

読谷村商工会におかれましては、設立 50 周年を機に、「すべては会員のために」の活動理念に基づき、地域総合経済団体としての役割を発揮され、行政ご当局と連携を密に、関係者の皆様が一層結束を強め、活力ある商工会として諸事業活動の更なる充実強化にご尽力くださいますようお願いいたします。

結びに、読谷村商工会の限りないご発展と会員並びに関係各位のますますのご健勝を祈念申し上げ、記念誌発刊のお祝いの言葉といたします。

1. 読谷村の概況

第1章 読谷村の概況

第1節 位置

本村は、沖縄本島中部の西方にあって、那覇から28kmの位置にあり、西は東シナ海に面し、南は嘉手納町、東は沖縄市、北は恩納村に隣接しています。

海に突き出た半島状の地形をなし、中央部で南北に国道58号が縦断しています。東は海拔約200mの読谷山岳を頂点とした緑の山並が連なり、比謝川・長田川・長浜川が流れています。西はエメラルドグリーンに輝くサンゴ礁池（イノー）に囲まれ、波濤が打ち寄せる残波岬や自然海岸が連なる風光明媚な海岸線が続きます。



資料 / 読谷村（読谷村ゆたさむらビジョンより）

第2節 沿革

1. 「おもろさうし」の「よんたんざ」

本村は、古くから中山国の最北端にあったことから「うふにし」（大北）と呼ばれました。琉球の古謡集である「おもろさうし」には「よんたもざ」「よんたむざ」と記されています。

また地形が半島となって海に突き出ていることから「さきよた」（崎枝）とも呼ばれました。「よんたもざ」「よんたむざ」は後に「読谷山」と呼ばれ、恩納村の南半分を領有する中山国の北鎮でありました。

2. 貿易使節「宇座の泰期」

1372年、察度王は、泰期を王弟と称せしめ明（中国）に遣わしました。これが琉球から初の朝貢貿易です。

また、「おもろさうし」には、「ふるげものろのふし（古堅祝女のふし）」の「初の貿易船をたたえるおもろ（巻15ノ66）」と「帰還貿易使節歓迎のおもろ（巻15ノ68）」の中で、「おざのたちよもい（宇座の泰期思い）」と謡われ、明（中国）貿易をはじめた勇敢な人と讃えられています。泰期は、数度にわたって明（中国）との交易を行い、進んで文物を摂取し、琉球の進運に大きな影響を与えました。

3. 歌と三線の祖と称えられる「赤犬子」

第二尚氏王統、尚真王代にオモロ歌唱の名人とされるアカインコがいたといわれています。「おもろさうし」（巻八）「おもろねあがり、あかいんこがおもろ御さうし」の後半部約40首がアカインコの詠んだオモロとなっています。アカインコは本村楚辺の出身でその足跡は沖縄本島の中部はもちろん北部・南部に及びその美声は各地で歓迎されました。

4. 「座喜味城」築城

1422年頃、読谷山の「按司」であった護佐丸は、尚巴志の命により座喜味城を築き、山田城から座喜味城に移って良港長浜を眼下に、およそ20年間読谷山一帯を統治しました。1440年頃、中山王府の命により護佐丸が中城城に移りました。

1447年に即位した尚真王の中央集権制度により、「按司」は首里に集められ、各間切には「按司掟」が置かれました。

5. 「喜名番所」設置

この按司掟は1611年に廃止され、各間切には「地頭代」が置かれるようになりました。当時、読谷山間切は谷茶以南を含む25カ村でありましたが、1673年の恩納間切の創設により、9カ村が恩納間切に編入され16カ村となりました。1820年頃、首里から国頭方面への街道が喜名村に開通し、座喜味城内にあった読谷山番所は喜名に移され、「喜名番所」と呼ばれるようになりました。

6. 近代の村編成

1897（明治30）年の間切島吏員規程実施により、「地頭代」は「間切長」に変わり、番所が間切役場となりました。1899（明治32）年の沖縄県土地整理法の施行により、それまでの喜名・座喜味・伊良皆・上地・波平・高志保・渡慶次・儀間・宇座・瀬名波・長浜・楚辺・渡具知・比謝・大湾・古堅の16カ村より、伊良皆から長田が、大湾から牧原が、喜名から親志がそれぞれ分離し、19カ村になりました。

1908（明治41）年には島嶼町村制の施行により「間切」を「村」に、「村」を「字」に改め、「読谷山村」となりました。そして、1914（大正3）年には大湾から比謝疋が、1935（昭和10）年には楚辺と比謝か

ら大木が、さらに 1946（昭和 21）年には座喜味から都屋が分離し 22 カ字となりました。

7. 戦後「基地の村」

第 2 次世界大戦において、本村は米軍の上陸地点となり、砲撃は熾烈を極め、緑野は焦土と化しました。1946(昭和 21)年 8 月、波平と高志保の一部に帰村が許可され、600 人余の村民で編成した「読谷山村建設隊」が村の再建に着手し、同年 11 月に待望の第 1 次復帰が実現しました。

その後も楚辺・大木など逐次復帰が進み居住地域も拡大していき、同年 12 月 16 日、戦災で荒廃した人心の一新と村の復興を願って、村名を「読谷山村」から「読谷村」に改称しました。しかし村土のほとんどは軍用地に接収されたままであり、1952（昭和 27）年 4 月 28 日の対日講和条約の発効により沖縄の施政権は分離され、「基地の村」という戦後を歩むこととなりました。

8. 復帰後の「文化村づくり」

1972(昭和 47)年、27 年間続いたアメリカ施政が終わり、沖縄は日本に復帰しました。しかし、復帰運動時、県民の悲願であった「核も基地もない平和な沖縄」は実現せず、一部の軍用地は返還されましたが、大半は残されたままとなりました。

こうした中、新しい村づくりが開始されました。その目標に「人間性豊かな環境・文化村」をかかげ、諸事業と並行して自立心を育成する文化村づくりに取り組んできました。

この文化村づくりは読谷山花織の復興、陶芸の拠点としてのヤチムンの里建設をはじめとして、各字の郷土芸能やお年寄りから子供たちによる演目が一堂に集まる「読谷まつり」へと花開きました。

9. 21 世紀に入ったむらづくり

21 世紀へと時代が変わり、むらづくりの目標を琉歌の韻を踏んだ「しまくとぅば」で「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化や 村の指針」と改めて、これまで培ってきた文化村づくりを基に、21 世紀という新しい時代に向けた取り組みを開始しました。

この中で文化村づくりの成果である文化センターが開設され、また座喜味城跡が 2000（平成 12）年に世界遺産へ登録されました。さらに、村民の悲願であった読谷補助飛行場が 2006（平成 18）年、戦後 62 年目、復帰後 35 年目にして遂に全面返還され村民の手に戻り、その跡地利用が 21 世紀むらづくりの幕開けとなりました。

10. 自治と協働するむらづくり

21 世紀初頭では少子高齢化に伴う課題が顕著となり、標語を琉歌の末句を変え「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化や 健康の村」とし、健康を大切に、共に協働するむらづくりを目指しました。

返還された読谷補助飛行場跡地では、国道 58 号読谷道路をはじめとする幹線道路、陸上競技場、ファーマーズマーケット、地域振興センター等の施設、大規模な農業基盤の整備が進み、活力あるむらづくり拠点の形成が進みました。

1985（昭和 60）年に大添、2014（平成 26）年に横田自治会が発足し、合わせて自治会は 24 となりました。これまで自治会や各種団体と共に進めてきたむらづくりを踏まえ、むらづくりの最高規範とする「読谷村自治基本条例」を 2013（平成 25）年に制定しました。また、本村の人口は、なお増加傾向にあり、2014（平成 26）年 1 月 1 日には、「日本一人口の多い村」となり、そして新たに行政区域を定め、24 自治会とそれを包含した 19 の行政区域による新たなむらづくりがスタートしています。

読谷村「村木・村花・花木」

改正 平成 12 年 4 月 18 日 告示第 25 号



村木：フクギ

雄雌異株で高さ 20m くらいに達する常緑広葉樹。沖縄では古くから織物用の黄色の染料を採る材料（樹皮）として利用されるとともに、海岸、屋敷の防風林としてかかせない沖縄を代表する緑化樹である。

(2000 年 3 月制定)



村花：ブーゲンビレア

情熱・明るさ・繁栄の象徴をあらわしている。ブラジル原産のツル性花卉。日当たりがよく、水はけのよい土地を好み、栽培も挿し木で増やせる。一年を通して色どりの花を咲かせてくれる。

(1986 年 4 月制定)



花木：コガネノウゼン（イッペー）

高さ 30m ぐらいに達し、直立する落葉広葉樹。原産地はブラジルで、本県には 1974 年に導入された。鮮やかな黄色の花は南国的な雰囲気をかもし出す。

(2000 年 3 月制定)

沿 革

1) 「おもろさうし」の「よんたんざ」

読谷村は、古くは中山国の最北端にあったことから「うふにし」（大北）と呼ばれました。琉球の古謡集である「おもろさうし」には「よんたもざ」「よんたむざ」と記されています。また地形が半島となって海に突き出ていることから「さきよた」（崎枝）とも呼ばれました。「よんたもざ」「よんたむざ」は後に「読谷山」と呼ばれ、恩納村の南半分を領有する中山国の北鎮でありました。

2) 貿易使節「宇座の奉期」

1372年察度王は、泰期を王弟と称せしめ中国（明）に遣わしました。これが琉球から初の朝貢貿易船です。

また、「おもろさうし」には、「ふるげものろのふし（古堅祝女のふし）」の「初の貿易船をたたえるおもろ（巻15ノ66）」と「帰還貿易使節歓迎のおもろ（巻15ノ68）」の中で、「おざのたちよもい（宇座の泰期思い）」と謡われ、中国（明）貿易をはじめた勇敢な人と讃えられています。泰期は、数度にわたって中国（明）との交易を行い、進んで文物を摂取し、琉球の進運に大きな影響を与えました。

3) 歌と三味線の祖と称えられる「赤犬子」

第二尚氏王統、尚真王代にオモロ歌唱の名人とされるアカインコがいたといわれています。「おもろさうし」（巻八）「おもろねあがり、あかいんこがおもろ御さうし」の後半部約40首がアカインコの詠んだオモロとなっています。アカインコは読谷村楚辺の出身でその足跡は沖縄本島の中部はもちろん北部・南部に及びその美声は各地で歓迎されました。

4) 「座喜味城」築城

1422年頃、読谷山の「按司」であった護佐丸は、尚巴志の命により座喜味城を築き、山田城から座喜味城に移って良港長浜を眼下に、おおよそ20年間読谷山一帯を統治しました。護佐丸は1440年頃、中山王府の命により中城城に移りました。1477年に即位した尚真王の中央集権制度により、「按司」は首里に集められ、各間切りには「按司掟」が置かれました。

5) 「喜名番所」設置

この按司掟は1611年に廃止され、各間切りには「地頭代」が置かれるようになりまし。当時、読谷山間切りは谷茶以南を含む25ヶ村でありましたが、1673年の恩納間切りの創設により、9ヶ村が恩納間切りに編入され16ヶ村となりました。1820年頃、首里から国頭方面への街道が喜名村に開通し、座喜味城内にあった読谷山番所は喜名に移され、「喜名番所」と呼ばれるようになりました。

6) 近代の村編成

1897年(明治30年)の間切島吏員規程実施により、「地頭代」は「間切長」に変わり、番所が間切役場となり、1908年(明治41年)には島嶼町村制の施行により「読谷山村」となりました。1899年(明治32年)の沖縄県土地整理法の施行により、それまでの喜名・座喜味・伊良皆・上地・波平・高志保・渡慶次・儀間・宇座・瀬名波・長浜・楚辺・渡具知・比謝・大湾・古堅の16カ村より、伊良皆から長田、大湾から牧原、喜名から親志がそれぞれ分離し、19カ村になりました。また1914年(大正3年)には大湾から比謝疋、1935年(昭和10年)には楚辺と比謝から大木、さらに1946年(昭和21年)には座喜味から都屋が分離し22ヶ字となりました。

7) 戦後「基地の村」

第2次世界大戦において、本村は米軍の上陸地点となり、砲撃は熾烈を極め、緑野は焦土と化しました。1946年(昭和21年)8月、波平と高志保の一部に帰村が許可され、600人余の村民で編成した「読谷山建設隊」が村の再建に着手し、同年11月に待望の第1次復帰が実現しました。

その後も楚辺・大木など逐次復帰が進み居住地域も拡大していき、同年12月16日、戦災で荒廃した人心の一新と村の復興を願って、村名を「読谷山村」から「読谷村」に改称しました。しかし、村土のほとんどは軍用地に接収されたままであり、1952年(昭和27年)4月28日の対日講和条約の発効により沖縄の施政権は分離され、「基地の村」という戦後を歩むこととなりました。

8) 復帰後の「文化村づくり」

1972年(昭和47年)、27年間続いたアメリカの施政が終わり、沖縄は日本に復帰しました。しかし県民の悲願であった「核も基地もない平和な島」は実現せず、一部の軍用地は返還されましたが、大半は残されたままとなりました。

こうしたなか、新しい村づくりが開始されました。その目標に「人間性豊かな環境・文化村」をかかげ、諸事業と並行して自立心を育成する文化村づくりに取り組んできました。

この文化村づくりは読谷山花織の復興、陶芸の拠点としてのヤチムンの里建設をはじめとして、各字の郷土芸能やお年寄りから子供たちによる演目が一堂に集まる「読谷まつり」へと花開きました。

また、読谷村の人口は着実に増加し、1985年（昭和60年）に大添区が設立され23ヵ字となりました。なお、こうした文化村づくりは、紅イモ特産品開発、地元主導によるリゾートホテル誘致、ゴルフ場開発等地域資源を活用した観光の展開、産業・経済開発へと結実していきました。

9) 21世紀へ入ったむらづくり

21世紀へと時代が変わり、読谷村第3次総合計画基本構想では、あるべき姿を琉歌の韻を踏んだウチナーグチで「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化や 村の指針」と改めて、これまで培ってきた精神的土壌を基に、21世紀という新しい時代に向けた取り組みを開始しました。この中で文化村づくりの成果である文化センターが開設され、また座喜味城跡が2000年（平成12年）に世界遺産へ登録されました。

さらに、村民の悲願であった読谷飛行場が戦後60年、復帰後35年の節目を経て2006年（平成18年）に全面返還され、跡地利用として読谷中学校運動場や陸上競技場が完成したほか、村道中央残波線をはじめとする村道整備、土地改良事業、かんがい排水事業等が大きく進捗するとともに、農産物直売施設（ファーマーズマーケット）等の流通販売の拠点施設の整備により、役場庁舎周辺は大きく変貌を遂げています。

さらに、人口は着実な伸びを示し現在は4万人を超え、2014年（平成26年）1月1日には日本一人口の多い村となりました。

このように、これまでの村づくりのさらなる発展と新時代の課題に対処するために読谷村第4次総合計画基本構想の「平和共存・文化継承・環境保全・健康増進・共生持続」を基本理念とし、村民とともに考え、村民と協働する自主自立の読谷村の実現に取り組んでいます。

[2] あるべき姿

1. 基本理念

村民の平和で幸せな暮らしを願い、読谷村が読谷村らしくあるために、これまでのむらづくりの基本としてきた理念である日本国憲法の「平和主義」「主権在民」「基本的人権の尊重」「地方自治の本旨」を遵守し、読谷村ゆたさむらビジョンの基本理念を次のように設定します。

【平和・環境】

かつての大戦と沖縄戦の教訓に立ち、争いのない平和な世界を希求する心、そして先人から受け継がれてきたかけがえのない財産である自然環境を守る心を大切にします。

【文化・健康】

伝統文化・地域文化は、読谷らしさの源であり、誇りです。そして、村民の健康がむらづくりを支えています。精神的な支えである文化を育み、心身ともに健康で豊かな心を大切にします。

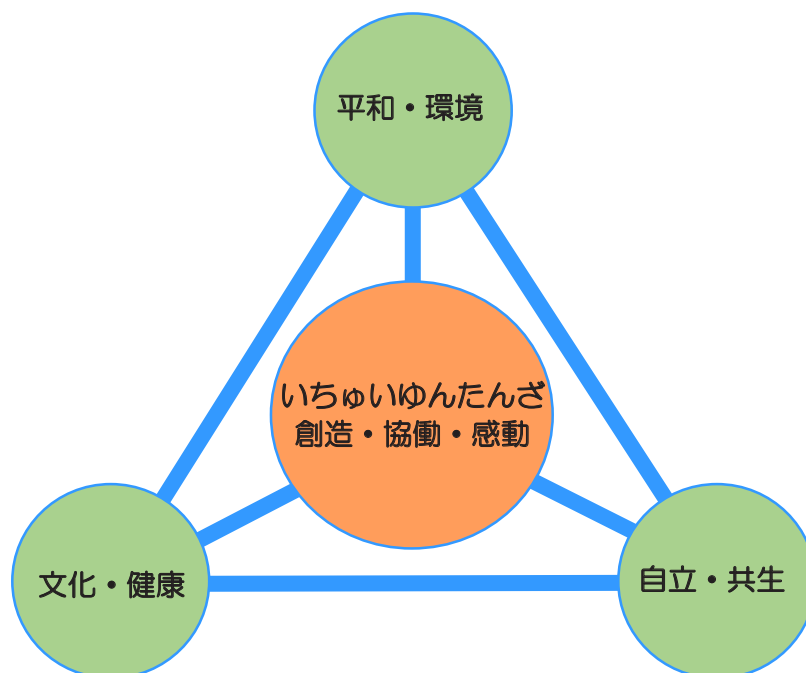
【自立・共生】

村民の助け合いと英知を結集し、「自分たちのむらは自分たちで創る」という自立の心、そして、自然との調和、人と人との繋がりである共生の心を大切にします。

(勢いのある読谷)

【いちゅいゆんたんざ・創造・協働・感動】

【平和・環境】【文化・健康】【自立・共生】の理念を結び、村民自らが創造し、互いに協働し、そして、多くの潤いと喜びを享受し、感動できるむらづくりをとおし、さらに勢い増す読谷村を目指します。



2. 基本目標

基本理念に立ち、時代の変遷とともに、目まぐるしく変容する時代に、将来に向け自立の精神を育み、共にむらづくりを享受する「むらづくりの基本方向」として、次のように基本目標を設定します。

「 ゆたさある風水^{フンシ} 優る^{マサ} 肝心^{チムグクル} 咲き誇る文化ど^{サ チフク ハナ ドゥ} 想い合ち^{ウム アワ} 」

ゆたさある風水^{フンシ}：素晴らしい環境

サンゴ礁の海、緑濃い森林、そこから発する河川という恵まれた自然、この自然に抱かれた暮らしや活動の場という「素晴らしい環境」を表します。

優る^{マサ} 肝心^{チムグクル}：優しく秀でた心根

争いのない平和な社会、地域福祉や男女共同等の共に生きる社会に向けて、教育や生涯学習、自治活動、社会貢献等をとおして育まれる「優しく秀でた心根」を表します。

咲き誇る文化ど^{サ チフク ハナ ドゥ}：活力ある社会

旺盛な芸能文化、独特な伝統工芸、魅力ある農漁商工、活発な観光・交流等が花開く「活力ある社会」を表し、「ど^{ドゥ}」と添えて前二句共々目標となります。

想い合ち^{ウム アワ}：心一つに

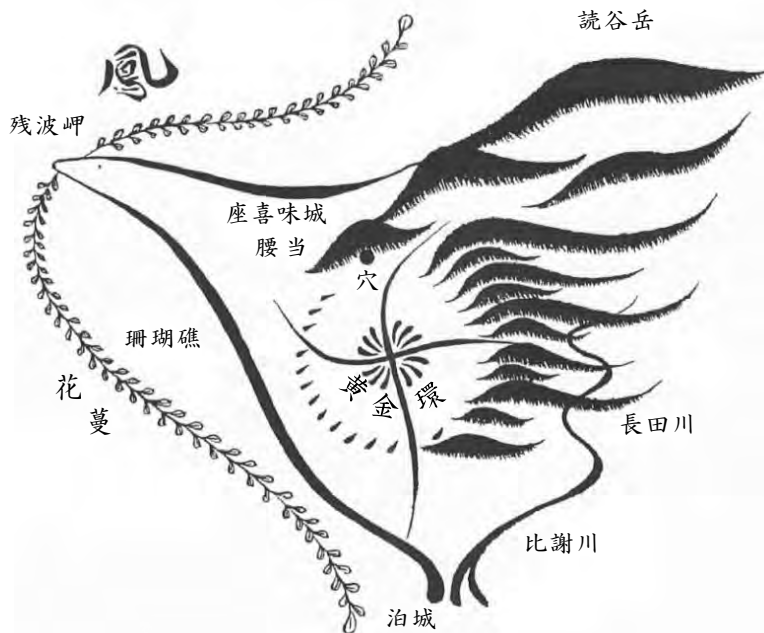
ゆたさある風水^{フンシ}、優る^{マサ} 肝心^{チムグクル}、咲き誇る文化ど^{サ チフク ハナ ドゥ}、の三句を目標にして「心一つに」（して行こう）と結びます。

3. 地域将来像

本村はサンゴ礁の海と地形から東シナ海に飛び立たんとする「鳳」に象られます。

人と自然を結び、共に生き、その調和力を未来へと繋ぎ、新たな時代へ向けて「飛鳳」を地域将来像とします。

飛 鳳



読谷村は

飛び立たんとする鳳

風わたる山と川

花蔓で飾る珊瑚の海

むらの中央部は

人集い豊穰生む黄金環

戦禍乗り越え

末永く平和と文化育む

[3] 施策の大綱

基本目標の実現に向けて、5つの基本施策を次のように設定します。

1. 基本施策

フンシトゥ シナティ ヨチユチトゥク

1) 風水としなて悠々と暮らさー（自然と調和した潤いのあるむらづくり）

本村は長大な自然海岸を有する海、緑濃い山並み、豊かな水量を持つ河川に恵まれ、段丘地形から見晴らす開放的な空間と美しい夕日が特徴です。

これらを守り育て後世に継承しつつ、適切な自然保全と都市基盤・住環境の整備をはかるため国土利用計画の見直しを進めるとともに、良好な景観形成に向けて景観条例の適正運用をはかります。また、安全・安心で文化的生活を営むため、防災・防犯等の充実や、道路・上下水道・公園など都市施設の整備を推進します。

また、軍用地の跡地利用や、自然海岸と調和した観光リゾート地区の土地利用整序など本村の課題に対処した土地利用や循環型社会の形成を推進し、自然と調和した潤いのあるむらづくりを目指します。

チュ ヒトゥ ヌ マナ スタ

2) ちむ清らさあるひとの学び育ちー（夢を育み生涯輝けるひとづくり）

むらづくりの基本は「ひとづくり」です。地域で子どもを安心して育てられ、若い世代が家庭を築き住み続けたいと思える社会や、子どもたちが夢を育み、各世代が生涯輝き続けることができるむらづくりが大切です。

また、国際化や技術革新等により社会が大きく変化する中で、時代に対応した教育の推進や村民が自ら研鑽に励み、グローバルな視点に立って活躍できる人材が求められています。

そこで、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる子ども子育てを進めるとともに、「生きる力」を育むための教育環境の充実や幅広い世代に向けた生涯学習の取り組みを推進し多様な地域文化の創造を促し、さらにスポーツをとおし心身を健やかに育み、子どもから大人まで夢を育み生涯輝けるひとづくりを目指します。

ウマンチュ ウラ フクティガンジュウヌシマ

3) 御真人や笑い誇て健康の村ー（未来が輝くハツラツむらづくり）

少子高齢化と人口減少は重要な政策課題であり、全国で子ども子育てや高齢者福祉への取り組みが進められています。本村も人口が増加しているとはいえ少子高齢化は進んでおり、同様の課題に向き合っています。

豊富な経験を持つ高齢者が様々な分野でハツラツと活躍し、誰もが健康で安心して生活できる社会が求められています。

そこで、村民一人ひとりの健康づくりを推進するとともに、障がいを持つ人も高齢者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、健康づくりから介護、医療まで、地域資源をネットワークした地域包括ケアシステムを構築し、ゆいまーるによる共生社会づくりを進め、村民の未来が輝くハツラツむらづくりを目指します。

タゲ イチュ ウク クガニ ハナサカ
4) 互いに 勢い起ち黄金花咲さー (人集い活力と魅力あふれるむらづくり)

情報通信技術の革新と国際化が進み、通信網による消費業態の変化など知的資源に依存する産業経済開発が進むとともに、観光等人的交流も進み自然・文化等地域固有の資源が見直されています。

こうした産業構造の変革期に際して、地域資源を活かした農漁業の6次産業化をはかるとともに農水産物の地産地消、食品開発、観光農漁業等、農漁商工観光の連携によるゆんたんざ産業づくりを推進します。

本村固有の自然・文化資源である世界遺産座喜味城跡や喜名番所、残波岬、泊城^{トウマイグシク}、読谷山花織^{ゆんたんざはなうい}やヤチムン、そして各地に伝わる伝統芸能など地域の人・文物に出会える観光振興を進めます。

また、スポーツキャンプ誘致により、野球・サッカー・ラグビー・ソフトボール等、多くのチームがキャンプに訪れます。今後も、スポーツキャンプ誘致による観光振興及び地域活性化を目指します。

読谷山花織^{ゆんたんざはなうい}とヤチムン、琉球ガラス等は本村を代表する伝統工芸であり、内外に知られる読谷村の地域ブランドです。中でも、読谷山花織^{ゆんたんざはなうい}は、伝統的工芸品として国に指定されています。今後も、その地域ブランドをさらに広めるため、継承及び発展を目指した手わざ工芸の振興を進め、人集い活力と魅力あふれるむらづくりを目指します。

スリティチュク ハイワ ヌ ユ
5) うち揃て 創らな平和の世ー (平和で平等な協働のむらづくり)

本村ではこれまで、個性的で多彩な自治機能を有した自治会や村民と協力してむらづくりに取り組んできました。これからさらなる協働のむらづくりに向け、住民自治を推進し、村民と村が適切な役割分担のもと、様々な地域課題に協働して取り組みます。

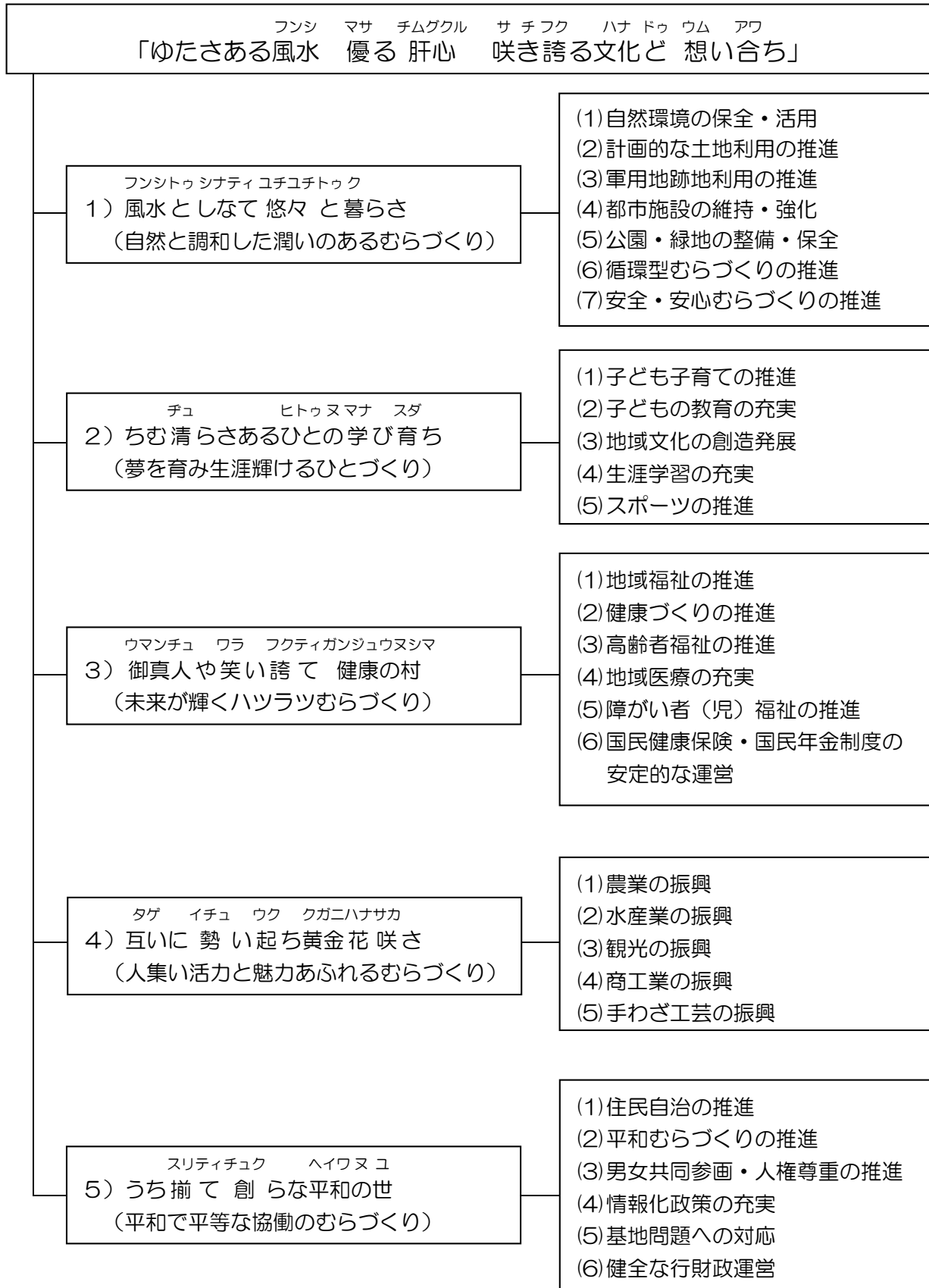
本村では沖縄戦で、父、母、そして兄弟、身近な多くの人々を失い、そして戦後の苦しい時代を皆で乗り切り、戦争の悲惨さ、平和の尊さを身に染みて体験してきました。

村民が安心して暮らすためには、何よりも平和が大切です。悲惨な戦争を忘れず、「平和創造展」など平和に係る催しを継続的に開催し、平和の尊さを次世代へと繋いでいきます。

さらに、人権が尊重される社会づくりに向け、男女の性別にとらわれることなく様々な分野に共に参画できる社会の推進や意識の高揚に努めます。そして、情報化や国際化が進展する新たな時代に対応したむらづくりの運営に努めるとともに、村民の安全・安心な暮らしを守るため米軍基地等に関する諸問題に対して適切に対処し、平和で平等な協働のむらづくりを目指します。

2. 施策の体系

基本施策に対応して各々の施策を次のように組み立てます。



3. 施策の方針

フシトウ シナティ ユチユチトウク

1) 風水として悠々と暮らさー（自然と調和した潤いのあるむらづくり）

(1) 自然環境の保全・活用

村民生活に潤いと安らぎをもたらす本村の豊かな自然環境、美しい景観を守り育てていくため、自然海岸や景観の大切さを共に学び、植樹祭や海岸清掃等をとおして、村民と村が一体となって心も環境も美しいむらづくりを目指します。

(2) 計画的な土地利用の推進

本村の自然環境や風土、歴史・文化等の特性を活かした土地利用に向けて、良好な生活環境や自然環境を保全するとともに、住宅地等の土地需要に対応した調整をはかり、計画的な土地利用を推進します。

(3) 軍用地跡地利用の推進

軍用地利用における幹線道路等の整備により跡地の有効利用が進むとともに、本村土地利用の骨格が形成されてきました。読谷補助飛行場をはじめとする返還跡地においても、その立地条件を活かし本村の発展に向けた跡地利用を推進します。

(4) 都市施設の維持・強化

戦後の帰村と米軍用地の接収等の経緯から市街地は南北に分散しており、幹線道路、排水路、下水道等の整備は充分とはいえず、財政計画との調整による都市施設の計画的な整備推進とともに、施設の老朽化に備えた計画的な維持管理を進めます。

(5) 公園・緑地の整備・保全

緑豊かで潤いのあるむらづくりに向け、森林地域、緑の拠点となる総合公園や村民センター地区、海岸・河川をつなぐ水と緑のネットワークを目指します。また、村民が安全で快適に利用できるよう地域と協働し維持管理するとともに、村民ニーズを踏まえた公園整備に取り組みます。

(6) 循環型むらづくりの推進

消費型社会の進展に伴うごみの量や種類の増加に対処し、ごみの減量化、分別や資源化に取り組むとともに、地球環境に配慮した再生可能エネルギーの活用による循環型むらづくりを推進します。

(7) 安全・安心むらづくりの推進

自然災害や火災、交通事故など様々な災害や事故に対して、防災や防犯・交通安全対策、消防・救急を充実するとともに、廃棄物の不法投棄防止や危険生物の駆除等環境衛生の充実をはかり、安全・安心むらづくりを推進します。

2) ちむ清らさあるひとの学び育ちー（夢を育み生涯輝けるひとづくり）

(1) 子ども子育ての推進

地域で子どもを安心して産み育てられるよう、乳児健診や子育て相談、待機児童対策等総合的な子育て施策の充実をはかるとともに、保育・幼児教育の多様なニーズに応える子ども子育てを推進します。

(2) 子どもの教育の充実

豊かな心、健やかな体、確かな学力が調和した「生きる力」を育むため、教育内容や学習環境の充実をはかるとともに、就学支援や特別支援教育へ引き続き取り組みます。また、安全・安心でより良い学校生活をおくるための施設整備を進めます。

地域の子は地域で育てることを基本に、学校と保護者や地域の皆さんが学校運営に知恵を出し合い、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を推進します。

(3) 地域文化の創造発展

本村の地域文化の継承・発展をはかるため、生涯学習や交流の場を設け、村民の地域文化への意識や教養の向上をはかるとともに、文化芸術活動を推進します。

「世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム」が、本村の歴史・文化・芸術の拠点、そして地域・観光振興の一翼を担う施設となるように努めるとともに、郷土に対する関心や誇りをより一層深める企画展等の取り組みを推進します。

(4) 生涯学習の充実

村民の学習ニーズを把握し、幅広い年齢層にあった多様な事業や学習内容の企画運営に努めるとともに、(仮称)総合情報センターなどの学べる環境づくりを進めます。

社会教育団体と連携・協力した活動の展開をはかり、生涯学習の充実に努めます。

(5) スポーツの推進

スポーツをとおして健康づくりや余暇の充実をはかるとともに、スポーツ団体などへの支援やスポーツ施設の利用環境の向上、村民ニーズにあった新たな施設の整備をはかります。

スポーツをとおしたむらづくりにより、「夢・希望・感動」を感じられる環境づくりに努めます。

3) 御真人や笑い誇って健康の村ー（未来が輝くハツラツむらづくり）

(1) 地域福祉の推進

生活困窮など人生において様々な困難にあるとき、困窮者が自立し安定した暮らしができるよう支援し、村民誰もが住み慣れた地域で、互いに支え合い、共に生活を続けることができる地域共生社会づくりに取り組みます。

(2) 健康づくりの推進

村民一人ひとりが健康で生き生き暮らしていけるよう、各種健診・相談体制の充実、健康づくりへの意識啓発活動などを推進するとともに、地域の連携を深め、村全体での生涯を通じた健康づくりを推進します。

(3) 高齢者福祉の推進

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活していけるよう、地域への参加を促すとともに、各種福祉サービスの充実をはかります。また、本村の地域資源を活用した「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供できる地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。

(4) 地域医療の充実

村民が安心して適切な医療を受けられるよう、各医療機関と連携し、在宅医療等地域医療の充実に向け、村立診療所の安定した運営に努めるとともに、地域包括ケアシステムの核となる民間病院の誘致に努めます。

(5) 障がい者（児）福祉の推進

障がいを持つ人が安心して暮らすことができるよう、ノーマライゼーションの理念のさらなる普及・啓発をはかるとともに、保育や教育、日常生活・就労などライフステージにおいて切れ目のない支援に努め、村民皆で支え合う地域福祉を推進します。

(6) 国民健康保険・国民年金制度の安定的な運営

少子高齢社会において、国民健康保険及び国民年金は重要なセーフティーネットです。国民健康保険の県を単位とする事業統一という制度変更に対応し、県と連携し効果的・効率的な運営をはかるとともに、国民年金においては無年金者がなくなるよう年金事務所と協力・連携し制度の普及に努めます。

4) 互いに 勢い起ち黄金花咲さー (人集い活力と魅力あふれるむらづくり)

(1) 農業の振興

安定した農業生産、農業経営に取り組めるよう営農者を支援するとともに、農漁商工・関係団体と連携した取り組みを強化し、農産物のブランド化・付加価値化を推進します。さらに、6次産業化や医福食農の連携、都市農業の振興、ICT活用など読谷型の新たな営農の創出・発展に向けて取り組みます。

(2) 水産業の振興

大型定置網、シンベエザメ生簀、都屋漁港水産物展示販売等施設などを活用し、安定した漁業活動への取り組みや、地元にも観光客にも親しまれる開かれた漁港づくりに取り組みます。また、水産資源を活用した商品開発や販路拡大の促進をはかり、地域水産業の発展に向けて取り組みます。

(3) 観光の振興

サンゴ礁の海、残波岬、世界遺産座喜味城跡、ゆんたんざはなうい読谷山花織、ヤチムン等自然、歴史・文化資源を活かした観光振興を推進するとともに、冬期の温暖な気候を活かしたスポーツキャンプの誘致、ホストファミリーによる民泊の推進等、新たな読谷型観光振興に取り組めます。また、観光協会や商工会、経済団体などと連携した観光推進体制を強化し、読谷型観光のさらなる発展に向けて取り組みます。

(4) 商工業の振興

商工業の持続的発展による活力のあるむらを目指し、安定した経営基盤づくりや集客への取り組みなど、商工会と連携し、中小企業の育成や健全な企業運営を支援するとともに、観光誘客や地元企業とタイアップした農水産物の商品開発等、農漁業、観光と連携した商工業の発展に向けて取り組みます。

(5) 手わざ工芸の振興

ゆんたんざはなうい読谷山花織は技術を継承するとともに、新たな製品開発や販路拡大に取り組み、生産の拡充をはかります。ヤチムン等については、県外出店や陶器市等による販売促進、ヤチムン・琉球ガラスに親しむ制作地めぐり等により、評価されるものづくりと持続的な生産振興をはかります。

また学校や生涯学習、イベント、観光などで体験の場を提供し村民をはじめ広く人々に親しまれる織物文化やヤチムン、ガラス等の普及に取り組めます。

5) うち揃て 創らな平和の世ー (平和で平等な協働のむらづくり)

(1) 住民自治の推進

住民による地域活動や自治活動を充実するとともに、各自治会と連携し、行政区域における地域活動の推進をはかります。

村と村民が地域情報を相互に発信・共有できるように努め、村民の自発的なむらづくりを推進します。

(2) 平和むらづくりの推進

争いのない平和な社会を目指して、沖縄戦の上陸地点となった本村において、戦跡の保全等をとおして悲惨な戦争の実相を後世に伝え、平和の尊さを学び考える機会を継続的に設け平和むらづくりを推進します。

(3) 男女共同参画・人権尊重の推進

日常的なジェンダー意識や慣行を見直し、お互いの立場を理解しあえる男女共同参画社会や、村民一人ひとりがお互いの人権を尊重し共に生きる社会、さらに仕事と生活の調和がとれた社会づくりに取り組みます。

(4) 情報化政策の充実

情報化社会に対応し、迅速かつ確かな情報の発信・共有に努めるとともに、統計情報等のオープンデータ化や各種電子申請などにより行政サービスの充実をはかります。また、情報システムのセキュリティ向上やクラウド化等を推進し、電子自治体の実現に取り組みます。

(5) 基地問題への対応

米軍基地から派生する事件・事故等の基地問題に対し、村民及び関係機関と連携して迅速に対処するとともに、基地によって生じる、騒音、交通障害、環境汚染等の諸問題の改善に取り組みます。また、これら基地問題の解決に向け、関係機関とともに、日米地位協定の抜本的な見直しに取り組みます。

(6) 健全な行財政運営

厳しい財政状況の中、安定した財政運営を基本とし、税金等財源の確保をはかるとともに国・県等の補助金などを活用した各種事業を推進し、中長期的な展望に立った効果的・効率的で健全な行財政運営に努めます。

4. 重点施策

基本目標の実現に向け、重点をおいて取り組むべき課題や、分野横断的に取り組むべき施策を重点施策として推進します。

1) 子ども子育ての推進

本村の待機児童数は、認可保育園の増設などにより、一定の解消がはかられてきましたが、低年齢児等の対策は充分とはいえません。また、放課後児童クラブなど、子どもたちの居場所整備が立ち遅れています。

少子化の進行や核家族化等により家庭や地域社会における子育て力の低下が見られ、待機児童対策をはじめとする幼児期の保育、学校教育を地域で総合的に推進する取り組みが始められています。

地域の宝である子どもたちが健やかに育ち、子育て世代が安心して子どもを産み育てられるよう、待機児童の解消、放課後児童クラブなど地域における子ども子育てを総合的に推進します。

<主な取り組み>

- 待機児童の対策 ●放課後児童クラブの設置 ●わんぱく広場・児童スポーツクラブの充実 ●子どもの貧困対策 ●幼保連携による幼児教育・保育の充実
- 子ども子育てに関する情報の発信・共有 など

2) ゆんたんざ産業づくりの推進

本村の農業は、土地改良事業や、かんがい排水事業等により基盤整備が大きく進展し、またファーマーズマーケット等農業関連施設整備により、営農条件が格段に向上しました。漁業においても大型定置網の設置や定置網漁船の導入、都屋漁港水産物展示販売等施設の整備により、安定した漁獲と販売促進が可能となりました。

さらにリフレッシュ農園や芋掘り遠足、大型定置網漁業体験やジンベエザメ体験ダイビングなどの農漁業と連携した観光、レクリエーション開発、地元企業による紅イモ菓子の開発、モズク等を素材とした食品開発など、複合的な地域振興を進めています。

今後も農漁業のみならず商工業や観光業などとの連携を強め、農漁業の6次産業化をはじめ付加価値の高い特産品開発と観光複合等による本村ならではのゆんたんざ産業づくりを推進します。

<主な取り組み>

- 農水産物加工の推進と6次産業化 ●観光体験型農漁業の充実 ●生産者組織の拡充 ●付加価値の高い特産物や魅力的な商品の開発 ●地産地消流通システムの充実 ●医福食農連携の推進 ●新たな流通の開拓など販路の充実 など

3) スポーツをとおしたむら（ひと）づくりの推進

沖縄県は美しく豊かな自然、温暖な気候といった観光条件を活かした国際的な観光立県を進め、観光産業は今日沖縄経済の柱へと成長してきました。その一環としてスポーツコンベンション誘致を推進しています。

本村においてもスポーツキャンプ誘致に取り組み、年間20を越すスポーツキャンプが開催されるようになりました。関係者からは、海の癒し効果や運動施設とホテルとの連携、村及び地元団体とが一体となった受け入れ体制が評価されています。

スポーツ教室等による夢を育むスポーツの振興、応援ツアーやスポーツキャンプの受け入れ促進、本村が選手の第二の故郷となるような国内外地域交流等、スポーツをとおして観光交流分野と複合した新たな地域振興、むら（ひと）づくりを進めます。

<主な取り組み>

- スポーツ教室開催によるスポーツの振興
- 選手をとおした国内外地域交流
- 応援ツアーの促進
- スポーツ関連の催し等コンベンションの推進 など

4) 包括的コミュニティづくりの推進

本村では、これまで住民自治の基礎団体である自治会と各種団体を礎にむらづくりを進めてきました。しかし近年、転入による新規人口の増加にともない、自治会加入者も減ってきており地域行事に偏りもみられます。

核家族化、少子高齢化が進む中で子ども子育てや高齢者福祉において、これまで以上に地域の協力が必要とされます。また大震災の経験から地域の絆が改めて見直されたように、防災活動や災害復興には普段からの取り組みが欠かせません。

自治会活動の充実と行事参加等による加入の促進、津波避難や消火訓練等の自主防災活動の推進、地域の子どもは地域で育てる地域学校協働活動の推進、認知症者の地域見守り等、行政区域における諸活動を統括していく包括的コミュニティづくりを推進します。

<主な取り組み>

- 自治会活動の充実、加入の促進
- 自主防災組織の育成
- 地域学校協働活動の推進
- 地域福祉推進委員会等の活動推進
- 行政区域における諸活動の統括 など

[4]地域別基本方向

1. 地域区分

地域将来像に対応し、本村を下図のように中央地域、北部地域、南部地域、海岸地域、森林地域に区分します。

地域区分



2. 地域別基本方向

1) 中央地域—むらづくりの発信拠点

本村の中央部を占めていた読谷補助飛行場が2006(平成18)年に返還されました。既に返還前に整備してきた運動広場、多目的広場、平和の森球場、読谷村役場、文化センター等に加え、返還後も健康増進センターや読谷中学校、陸上競技場等の施設整備を進めてきました。

また本地域で十字型に交差する国道58号読谷道路及び村道中央残波線の整備を進めるとともに、村道楚辺座喜味線等の整備も進み、本村の中心地となる幹線道路網が形

成されつつあります。

読谷村役場の南側では、農業関連施設、読谷村地域振興センターの整備により、コミュニティFM放送等の情報発信とあわせて農漁・商工・観光の連携する活動拠点が形成され、周辺地区では大規模なほ場、かんがい排水、ビニールハウス等の整備が完了し、本格的な営農条件が整いました。

今後とも幹線道路網の整備を推進するとともに、公共等拠点施設の利用促進と整備充実をはかり、人々が集い、健康で賑わいのある、そして農漁・商工・観光の複合したゆんたんざ産業の発信地となる活力あるむらづくり拠点の形成を目指します。

2) 北部地域—歴史と文化が薫る田園都市

北部地域は景勝の地残波岬、世界遺産に登録された座喜味城跡、喜名番所、そして伝統工芸センター、ヤチムンの里等、本村ならではの自然、歴史・文化に恵まれた地域です。

日本復帰後相次いで米軍基地が返還され、農村地域としてほ場、長浜ダム、かんがい排水等の農業・農村基盤の整備と旧集落地、移転先地等での住宅地整備が進みました。こうした農村地域の整備と相まって、各地域の伝統芸能が継承されるなど、比較的コミュニティの充実した地域です。

北部地域の自然、歴史・文化資源及び農村環境を活かすとともに地域の共同性を育み、座喜味城跡やヤチムンの里の景観を保全し、新設された「世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム」を核に歴史・文化拠点の形成を目指すとともに、瀬名波通信施設、楚辺通信所等軍用地跡地の都市と農村環境が調和する土地利用を進め、歴史と文化が薫る田園都市の形成を目指します。

3) 南部地域—水と緑に潤う緑豊都市

南部地域は戦後軍用地により移転した集落と国道58号、県道6号線沿いに立地した住宅、事業所等から形成された市街地です。復帰後返還軍用地における渡具知の集落復帰や古堅の土地区画整理事業により市街化が進みました。

近年、国道58号読谷道路の暫定供用、返還軍用地跡地での大湾東、大木地区の土地区画整理事業の進展、大規模商業施設等の進出など、都市地域が拡大しつつあります。こうした都市地域の拡大と相伴って転入する新規住民が多い地域となりました。

都市地域の拡大を支える市街地を横断する新たな幹線道路の整備、子ども子育て、高齢者福祉、防犯・防災に向けたコミュニティの育成、泊城公園を拠点とする比謝川河畔と海岸線の保全と活用等、安全・安心、水と緑に潤う緑豊都市の形成を目指します。

4) 海岸地域—夕日の美しいサンゴ礁の海

本村が有する14kmに及ぶ自然海岸と陸域面積の約1/6にあたるサンゴ礁の海は、中南部都市圏に残された貴重な自然海岸です。また海域では、大型定置網を活用した定置網漁業体験、海産物販売とレストラン経営、ジンベエザメの中間飼育と水族館への提

供、ダイビング観光等の多角的な水産業を展開しています。

こうした海岸環境を資源に多くのリゾートホテルが進出しました。残波岬一帯は残波岬ボールパークを拠点に平和の森球場、陸上競技場と連携してスポーツキャンプ地へと定着してきました。また海岸中央部の読谷リゾート地区には新たなホテルの整備が進んでおり、体験型観光施設とあわせて観光リゾート地区として拡充しています。

沖縄観光は堅調な伸びを続けており、本村においても海岸部における新たな観光開発が想起されます。海岸部の開発においては、村民の海浜利用を確保する公共基盤の拡充や文化財の保全、養浜、防風・防潮林の保全等、夕日の美しいサンゴ礁の海の環境保全と調和する観光等施設の誘導整備を推進します。

5) 森林地域—山裾を養う豊かな森と川

本村の東側丘陵山地は島尻マージと国頭マージの接する地域で、沖縄本島北部と南部の自然環境が交差する特徴的な森林地域であります。また比謝川、長浜ダムの集水区域にあたり、比謝川支川長田川での水道用水の取水、長浜ダムのかんがい排水等の重要な水源涵養林となっています。

この森林地域は戦後から今日まで嘉手納弾薬庫として占有されてきました。一部返還がなされてはいるものの現在 1,000ha 余、村面積の 30%の広大な地域を占めており、沖縄本島中部東側地域との交通障壁となっています。

米軍基地内であるとはいえ施設使用による損壊、汚染等の防止に努め、都市生活と農業生産を支える環境資源として森林地域の保全をはかるとともに、河川沿いの緑地、文化財等を活かした環境整備を推進します。また、沖縄本島東西を結ぶ交通網の整備促進による交通障壁の改善を目指します。

読谷村の歩み

1. 「おもろさうし」の「よんたんざ」

本村は、古くから中山国の最北端にあったことから「うぶにし」（大北）と呼ばれました。琉球の古謡集である「おもろさうし」には「よんたもざ」「よんたむざ」と記されています。

また地形が半島となって海に突き出ていることから「さきよた」（崎枝）とも呼ばれました。「よんたもざ」「よんたむざ」は後に「読谷山」と呼ばれ、恩納村の南半分を領有する中山国の北鎮でありました。

2. 貿易使節「宇座の泰期」

1372年、察度王は、泰期を王弟と称せしめ明（中国）に遣わしました。これが琉球から初の朝貢貿易です。

また、「おもろさうし」には、「ふるげものろのふし（古堅祝女のふし）」の「初の貿易船をたたえるおもろ（巻15ノ66）」と「帰還貿易使節歓迎のおもろ（巻15ノ68）」の中で、「おざのたちよもい（宇座の泰期思い）」と謡われ、明（中国）貿易をはじめた勇敢な人と讃えられています。泰期は、数度にわたって明（中国）との交易を行い、進んで文物を摂取し、琉球の進運に大きな影響を与えました。

3. 歌と三線の祖と称えられる「赤犬子」

第二尚氏王統、尚真王代にオモロ歌唱の名人とされるアカインコがいたといわれています。「おもろさうし」（巻八）「おもろねあがり、あかいんこがおもろ御さうし」の後半部約40首がアカインコの詠んだオモロとなっています。アカインコは本村楚辺の出身でその足跡は沖縄本島の中部はもちろん北部・南部に及びその美声は各地で歓迎されました。

4. 「座喜味城」築城

1422年頃、読谷山の「按司」であった護佐丸は、尚巴志の命により座喜味城を築き、山田城から座喜味城に移って良港長浜を眼下に、およそ20年間読谷山一帯を統治しました。1440年頃、中山王府の命により護佐丸が中城城に移りました。

1447年に即位した尚真王の中央集権制度により、「按司」は首里に集められ、各間切には「按司掟」が置かれました。

5. 「喜名番所」設置

この按司掟は1611年に廃止され、各間切には「地頭代」が置かれるようになりました。当時、読谷山間切は谷茶以南を含む25カ村でありましたが、1673年の恩納間切の創設により、9カ村が恩納間切に編入され16カ村となりました。1820年頃、首里から国頭方面への街道が喜名村に開通し、座喜味城内にあった読谷山番所は喜名に移され、「喜名番所」と呼ばれるようになりました。

6. 村（字）の編成

1897（明治30）年の間切島吏員規程実施により、「地頭代」は「間切長」に変わり、ハンジョ マギリ ヤクバ番所が間切役場となりました。1899（明治32）年の沖縄県土地整理法の施行により、それまでの喜名・座喜味・伊良皆・上地・波平・高志保・渡慶次・儀間・宇座・瀬名波・長浜・楚辺・渡具知・比謝・大湾・古堅の16カ村より、伊良皆から長田が、大湾から牧原が、喜名から親志がそれぞれ分離し、19カ村になりました。

1908（明治41）年には島嶼町村制の施行により「間切」を「村」に、「村」を「字」ヨミタンザソンに改め、「読谷山村」となりました。そして、1914（大正3）年には大湾から比謝マギリ ソン ムラ アザが、1935（昭和10）年には楚辺と比謝から大木が、さらに1946（昭和21）年には座喜味から都屋が分離し22カ字となりました。

7. 戦後「基地の村」

第2次世界大戦において、本村は米軍の上陸地点となり、砲撃は熾烈を極め、緑野は焦土と化しました。1946（昭和21）年8月、波平と高志保の一部に帰村が許可され、600人余の村民で編成した「読谷山村建設隊」が村の再建に着手し、同年11月に待望の第1次復帰が実現しました。

その後も楚辺・大木など逐次復帰が進み居住地域も拡大していき、同年12月16日、戦災で荒廃した人心の一新と村の復興を願って、村名を「読谷山村」から「読谷村」ヨミタンザソン ヨミタンソンに改称しました。しかし村士のほとんどは軍用地に接収されたままであり、1952（昭和27）年4月28日の対日講和条約の発効により沖縄の施政権は分離され、「基地の村」という戦後を歩むこととなりました。

8. 復帰後の「文化村づくり」

1972（昭和47）年、27年間続いたアメリカ施政が終わり、沖縄は日本に復帰しました。しかし、復帰運動時、県民の悲願であった「核も基地もない平和な沖縄」は実現せず、一部の軍用地は返還されましたが、大半は残されたままとなりました。

こうした中、新しい村づくりが開始されました。その目標に「人間性豊かな環境・文化村」をかかげ、諸事業と並行して自立心を育成する文化村づくりに取り組んできました。

この文化村づくりは読谷山ゆんだんざはなうい花織の復興、陶芸の拠点としてのヤチムンの里建設をはじめとして、各字の郷土芸能やお年寄りから子供たちによる演目が一堂に集まる「読谷まつり」へと花開きました。

9. 21世紀に入ったむらづくり

21世紀へと時代が変わり、むらづくりの目標を琉歌の韻を踏んだ「しまくとうば」で「ゆたさある風水 優る 肝心 咲き誇る文化や 村の指針」と改めて、これまで培ってきた文化村づくりを基に、21世紀という新しい時代に向けた取り組みを開始しました。

この中で文化村づくりの成果である文化センターが開設され、また座喜味城跡が2000（平成12）年に世界遺産へ登録されました。さらに、村民の悲願であった読谷補助飛行場が2006（平成18）年、戦後62年目、復帰後35年目にして遂に全面返還され村民の手に戻り、その跡地利用が21世紀むらづくりの幕開けとなりました。

10. 自治と協働するむらづくり

21世紀初頭では少子高齢化に伴う課題が顕著となり、標語を琉歌の末句を変え「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化や 健康の村」とし、健康を大切に、共に協働するむらづくりを目指しました。

返還された読谷補助飛行場跡地では、国道58号読谷道路をはじめとする幹線道路、陸上競技場、ファーマーズマーケット、地域振興センター等の施設、大規模な農業基盤の整備が進み、活力あるむらづくり拠点の形成が進みました。

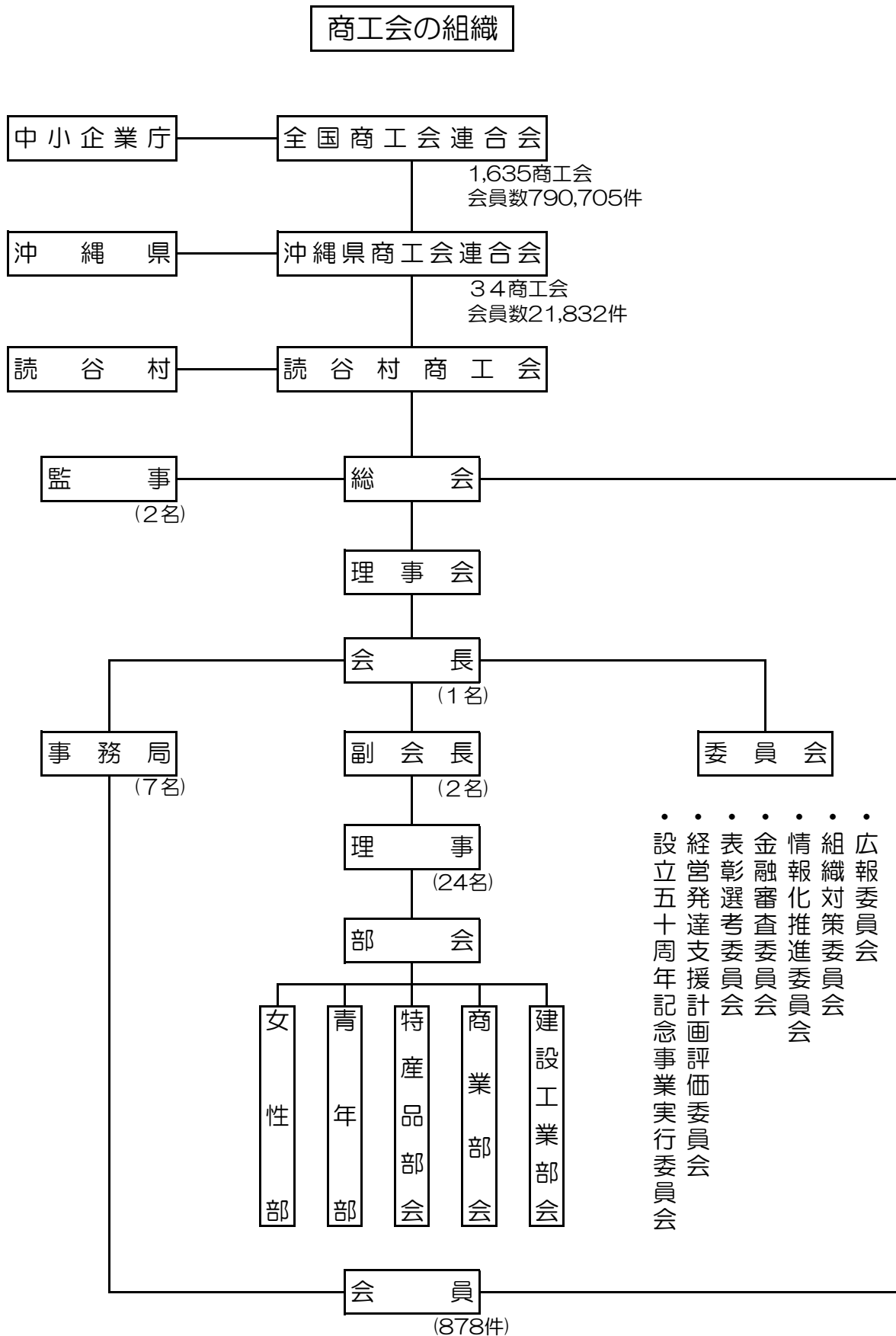
1985（昭和60）年に大添、2014（平成26）年に横田自治会が発足し、合わせて自治会は24となりました。これまで自治会や各種団体と共に進めてきたむらづくりを踏まえ、むらづくりの最高規範とする「読谷村自治基本条例」を2013（平成25）年に制定しました。また、本村の人口は、なお増加傾向にあり、2014（平成26）年1月1日には、「日本一人口の多い村」となり、そして新たに行政区域を定め、24自治会とそれを包含した19の行政区域による新たなむらづくりがスタートしています。

読谷村行政区域界図



2. 読谷村商工会の概況

商工会の組織と役員



準備中

読谷村商工会の現況

所在地	〒 904-0302 沖縄県 中頭郡読谷村字喜名2346-11 読谷村地域振興センター2階 メールアドレス: yomi_shoko@yomitan.or.jp					TEL(勤) 098-958-4011 FAX 098-958-4012					
会長	仲宗根 朝治 (業種) サービス業 (事業所名) 株式会社 FMよみたん					TEL(勤) 098-958-7860 FAX 098-958-7861					
副会長	仲座 一正 (業種) 建設業 (事業所名) 有限会社 イラミナ電設					TEL(勤) 098-956-2856 FAX 098-956-7660					
	當山 勝則 (業種) サービス業 (事業所名) 株式会社 旅らぼ沖縄					TEL(勤) 098-958-4562 FAX 098-958-7570					
理事	安田 善則	比嘉 兼作	玉城 幸志	小倉 宏樹	玉榮 則仁						
	上地 剛	大城 貢	上地 広喜	澤岨 英樹	和泉 忠男						
	大城 保	森岡 航	天久 隆一	江田 尚也	名嘉元 邦子						
	玉那覇 友也	大城 亮武	比嘉 良昭	菅原 裕一	島袋 悦子						
	廣瀬 真人	又吉 弘子	佐久川 政源	宮里 亜弓							
監事	名城 道一	知花 昌彦									
事務局長	大城 朝和										
経営指導員	友利 慎吾		松川 博明								
補助員	東 遥										
記帳専任職員	屋富祖 あゆみ		川口 多美子								
記帳指導職員											
記帳指導員	辺土名 誠子										
一般職員	國吉 ひとみ										
総会員数	878 人(商工業者等数 1,146 人 商工業者数 1,096 人 小規模事業者数 1,012 人) 組織率(定款会員・特別会員含む) 80.1% 組織率(定款会員・特別会員除く) 78.2%										
総会員数内訳	建設業	176		小売業	96		その他	72			
	製造業	77		飲食店 宿泊業	158		定款会員 特別会員	21			
	卸売業	20		サービス業	258		計	878			
令和5年度算	収入	国・県補助金		24,633,967 円		支出	経営改善普及事業費		33,509,937 円		
		市町村補助金		8,075,000 円			地域振興総合事業費		8,661,000 円		
		会費		13,900,000 円			管理費		11,570,000 円		
		その他		12,008,063 円			その他		4,876,093 円		
		合計		58,617,030 円			合計		58,617,030 円		
青年部	部長	佐久川 政源		副部長	大城 亮武		照屋 哉		大城 洋平 上地 大輔		
女性部	部長	宮里 亜弓		副部長	島袋 孝子		上地 英美利				
部会名	商業部会 建設工業部会 特産品部会										
委員会名	広報委員会 組織対策委員会 情報化推進委員会 金融審査委員会										
	表彰選考委員会 経営発達支援計画評価委員会										

歴代会長



初代
安田慶文
(昭和48年～昭和53年)



第2代
源河朝法
(昭和54年～昭和57年)



第3代
仲宗根正喜
(昭和58年～昭和61年)



第4代
松田昌彦
(昭和62年～平成2年)



第5代
大城勝哲
(平成3年～平成11年)



第6代
大城行治
(平成12年～平成17年)



第7代
平良喜代子
(平成18年～平成23年)



第8代
國吉眞哲



第9代
仲宗根朝治
(令和元年～令和6年現在)

歴代副会長



比嘉山三
(昭和48年～昭和49年)



松田昌徳
(昭和48年～昭和53年)



源河朝法
(昭和50年～昭和53年)



仲村渠 勇
(昭和54年～昭和57年)



金城棟英
(昭和54年～昭和57年)



佐久間盛夫
(昭和58年～昭和59年)



与久田和男
(昭和58年～昭和61年)



宇栄原宗春
(昭和60年)



松田昌彦
(昭和61年)

歴代副会長



池原 政広
(昭和62年～平成2年)



知花 昌一
(昭和62年)



宮城 直
(昭和62年～昭和63年)



大城 勝哲
(平成元年～平成2年)



松田 昌吉
(平成2年～平成8年)



小平 武
(平成2年～平成5年)



國吉 眞哲
(平成4年～平成8年)



大城 行治
(平成9年～平成11年)



金城 吉輝
(平成9年～平成11年)

歴代副会長



宮城清勝
(平成12年～平成14年)



平良喜代子
(平成12年～平成17年)



有留美樹
(平成15年～平成17年)



大城光
(平成18年～平成20年)



伊波米次
(平成18年～平成20年)



吉山盛章
(平成21年～平成23年)



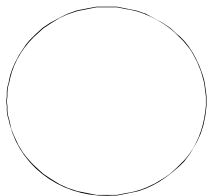
玉城政幸
(平成21年～平成23年)



安田善則
(平成24年～平成26年現在)



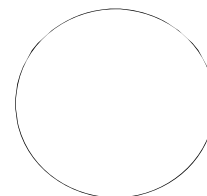
岩下英明
(平成24年～平成26年現在)



仲宗根朝治
(平成27年～平成29年)

準備中

仲座一正
(平成30年～令和6年現在)



當山勝則
令和3年～令和6年現在)

役員紹介

準備中

理事

準備中

理事

準備中

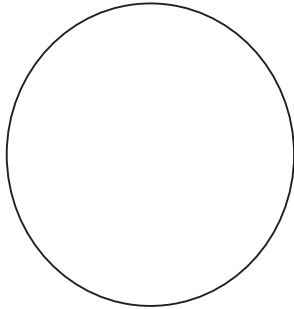
青年部役員

準備中

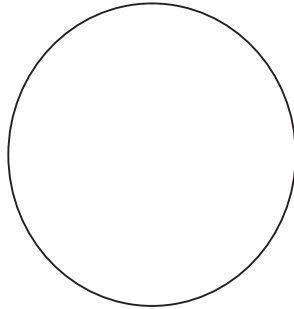
女性部役員

準備中

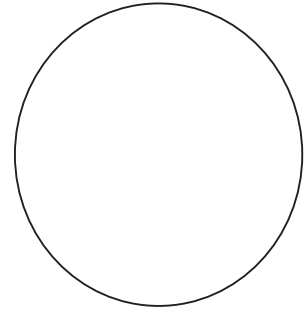
事務局職員



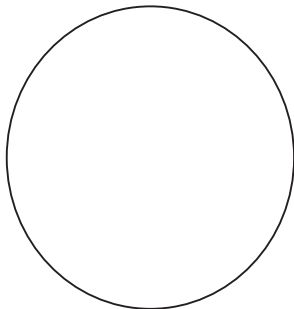
大 城 朝 和



友 利 慎 吾



松 川 博 明

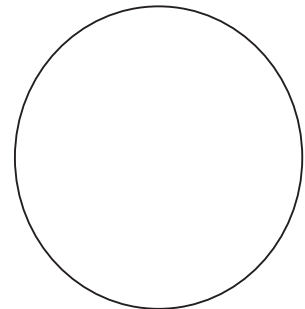


東 遥

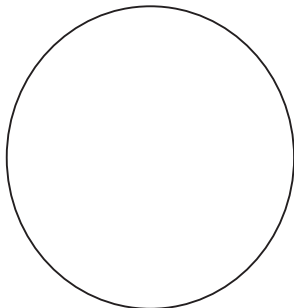
準備中



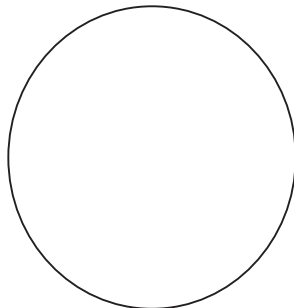
屋富祖 あゆみ



國 吉 ひとみ



辺土名 誠 子



川 口 多実子

職名	氏名		職名	氏名
事務局長	大 城 朝 和		経営指導員	友 利 慎 吾
経営指導員	松 川 博 明		補 助 員	東 遥
記帳専任職員	屋富祖 あゆみ		一 般 職 員	國 吉 ひとみ
〃	川 口 多実子		記帳指導員	辺土名 誠 子

読谷商工会役員名簿

役職	氏名	事業所名	所在地
会長	仲宗根 朝 治	(株)FMよみたん	喜名2346-11
副会長	仲 座 一 正	(有)イラミナ電設	伊良皆631
	當 山 勝 則	(株)旅らぼ沖縄	喜名2346-11
理事	安 田 善 則	読谷協同産業(株)	儀間310-1
	比 嘉 兼 作	(有)比嘉酒造	長浜1061
	玉 城 幸 志	(株)残波ゴルフクラブ	宇座1133
	小 倉 宏 樹	(特非)よみたん自然学校	高志保1020
	玉 榮 則 仁	ホテル日航アリビラ	儀間600
	上 地 剛	比謝川ガス(株)	大湾531-11
	大 城 貢	(株)NDアーキテクトン	渡慶次1184-1
	上 地 広 喜	sweet 株式会社	大湾356 2F
	澤 岷 英 樹	(株)御菓子御殿	宇座657-1
	和 泉 忠 男	(株)沖広産業	座喜味3105
	大 城 保	大武建設(株)	高志保328
	森 岡 航	(株)森岡産業	座喜味3156
	天 久 隆 一	天久テクニカル自動車商会	波平908
	江 田 尚 也	江田フードサービス	都屋383
	名嘉元 邦 子	笑い福い	伊良皆125
	玉那覇 友 也	沖縄ハム総合食品(株)	座喜味2822-3
	大 城 亮 武	整体整骨院Link	喜名2346-1
	比 嘉 良 昭	(有)良政産業	大木470
	菅 原 裕 一	ロイヤルホテル沖縄残波岬	宇座1575
	又 吉 弘 子	読谷山花織事業協同組合	座喜味2974-2
	廣 瀬 真 人	星野リゾート	儀間474
	島 袋 孝 子	デイサービス生きる家	都屋443
	佐久川 政 源	青年部長・古堅モーターズ(株)	古堅722-2
宮 里 亜 弓	女性部長・(株)MIAホーム	瀬名波253-2	
監事	名 城 道 一	(有)ニューラッキーランドリー	比謝377
	知 花 昌 彦	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保1046

各部会役員名簿

① 商業部会

役職	氏名	事業所	所在地
部会長	玉城 靖	(有)比嘉酒造	長浜1061
副部会長	玉城幸志	(株)残波ゴルフクラブ	宇座1133
副部会長	小倉宏樹	(特非)よみたん自然学校	高志保1020
幹事	國吉眞哲	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保1020-1
〃	知花昌彦	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保1046
〃	大城 光	(有)沖縄スカイ観光サービス	高志保1046
〃	玉榮則仁	ホテル日航アリビラ	儀間600
〃	菅原裕一	ロイヤルホテル沖縄残波岬	宇座1575
〃	澤岬英樹	(株)御菓子御殿	宇座657-1
〃	屋富祖純子	(株)沖縄黒糖	座喜味2822-3

① - 2 弁当分科会

役職	氏名	事業所	所在地
分科会長	玉城幸志	(株)残波ゴルフクラブ	読谷村字宇座1133

② 建設工業部会

役職	氏名	事業所	所在地
部会長	上地 豊	(有)サンオキ	楚辺2146-1
副部会長	比嘉良昭	(有)良政産業	大木470
副部会長	仲座一正	(有)イラミナ電設	伊良皆631
幹事	玉城政幸	(株)山中組	長浜1750
〃	國吉眞和	(有)読谷電気水道工事社	伊良皆373-3
〃	伊波米次	(有)アイエイチエー設計	伊良皆313-3
〃	大城 保	大武建設(株)	高志保84
〃	仲村勝志	(株)池原建設	伊良皆227-1
〃	安室 幹	(有)繋久産業	古堅975-2
〃	町田宗敏	(有)玉城電工	大湾589
〃	大城 悠	(有)泰伸電気	高志保250
〃	儀間眞之介	(株)比謝川電気読谷営業所	古堅920
〃	宮里眞由美	三建設備(株)	波平2154-1

③ 特産品部会

役 職	氏 名	事業所	所在地
部会長	比嘉 兼作	(有)比嘉酒造	長浜1061
副部会長	澤岷 英樹	(株)御菓子御殿	宇座657-1
幹事	知花 昌彦	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保1046
〃	玉那覇 友也	沖縄ハム総合食品(株)	座喜味2822-3
〃	上地 健一郎	寿味屋食品(株)	都屋8
〃	桃原清一郎	(株)がんじゅう	伊良皆225

委員会等名簿

① 広報委員会

委員会役職	氏 名	事業所	所在地
委員長	玉 城 幸 志	(株)残波ゴルフクラブ	宇座1133
副委員長	大 城 貢	(株)NDアーキテクトン	渡慶次1184-1
委 員	上 地 広 喜	sweet 株式会社	大湾356 2F
〃	玉那覇 友 也	沖縄ハム総合食品(株)	座喜味2822-3
〃	名嘉元 邦 子	笑い福い	伊良皆125
〃	大 城 亮 武	整体整骨院 Link	喜名2346-11
〃	廣 瀬 真 人	星野リゾート	儀間474
〃	又 吉 弘 子	読谷山花織事業協同組合	座喜味2974-2
担当三役(副)	當 山 勝 則	(株)旅らぼ沖縄	喜名2346-11
事務局職員	松 川 博 明	読谷村商工会	喜名2346-11

② 組織対策委員会

委員会役職	氏 名	事業所	所在地
委員長	安 田 善 則	読谷協同産業(株)	儀間310-1
副委員長	澤 岷 英 樹	(株)御菓子御殿	宇座657-1
委 員	上 地 剛	比謝川ガス(株)	大湾531-11
〃	玉 榮 則 仁	ホテル日航アリビラ	儀間600
〃	大 城 保	大武建設(株)	高志保328
〃	和 泉 忠 男	(株)沖広産業	座喜味3105
〃	江 田 尚 也	江田フードサービス	都屋383
〃	宮 里 亜 弓	(株)MIA ホーム	瀬名波253-2
担当三役(副会)	仲 座 一 正	(有)イラミナ電設	伊良皆631
事務局職員	東 遥	読谷村商工会	喜名2346-11

③ 情報化推進委員会

委員会役職	氏名	事業所	所在地
委員長	小倉 宏 樹	(特非)よみたん自然学校	高志保1020
副委員長	森岡 航	(株)森岡産業	座喜味3156
委員	比嘉 兼 作	(有)比嘉酒造	長浜1061
〃	天久 隆 一	天久テクニカル自動車商会	波平908
〃	比嘉 良 昭	(有)良政産業	大木470
〃	菅原 裕 一	ロイヤルホテル沖縄残波岬	宇座1575
〃	島袋 孝 子	デイサービス活きる家	都屋443
〃	佐久川 政 源	古堅モーターズ(株)	古堅722-2
担当三役(会長)	仲宗根 朝 治	(株)FMよみたん	喜名2346-11
事務局職員	友利 慎 吾	読谷村商工会	喜名2346-11

④ 表彰選考委員会

委員会役職	氏名	事業所	所在地
委員長	國吉 眞 哲	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保1020-1
副委員長	仲宗根 朝 治	(株)FMよみたん	喜名2346-11
委員	仲座 一 正	(有)イラミナ電設	伊良皆631
〃	當山 勝 則	(株)旅らぼ沖縄	喜名2346-11
〃	安田 善 則	読谷協同産業(株)	儀間310-1
〃	比嘉 兼 作	(有)比嘉酒造	長浜1061
事務局	大城 朝 和	読谷村商工会	喜名2346-11
〃	國吉 ひとみ	読谷村商工会	喜名2346-11

⑤ 経営発達支援計画評価委員会

委員会役職	氏名	事業所&所属機関	所在地
委員長	仲座 一 正	(有)イラミナ電設	読谷村字伊良皆631
委員	伊佐 英 明	読谷村役場商工観光課長	読谷村字座喜味2901
〃	高嶺 直	高嶺中小企業診断士事務所	北谷町吉原671-10
〃	玉寄 勝 久	沖縄県商工会連合会	那覇市小祿1831-1

⑥ 金融審査委員会 (委員会名簿はマル秘扱いにより掲載せず)

⑦ 設立 50 周年記念事業実行委員会（本会理事会で兼任のため名簿省略）

⑧ 商工会設立 50 周年記念事業式典委員会

委員会役職	氏名	事業所	所在地
委員長	安田 善則	読谷協同産業(株)	儀間 310-1
委員	澤岷 英樹	(株)御菓子御殿	宇座 657-1
〃	上地 剛	比謝川ガス(株)	大湾 531-11
〃	玉榮 則仁	ホテル日航アリビラ	儀間 600
〃	大城 保	大武建設(株)	高志保 328
〃	和泉 忠男	(株)沖広産業	座喜味 3105
〃	江田 尚也	江田フードサービス	都屋 383
〃	宮里 亜弓	(株)MiA ホーム	瀬名波 253-2
〃	國吉 眞哲	(株)読谷ククルリゾート沖縄	高志保 1020-1
〃	大城 光	(有)沖縄スカイ観光サービス	高志保 1046
〃	長浜 真則	total reform 琉創	座喜味 529-2
担当三役	仲座 一正	(有)イラミナ電設	伊良皆 631
事務局	國吉ひとみ	読谷村商工会	喜名 2346-11

⑨ 商工会設立 50 周年記念事業記念誌発行委員会

委員会役職	氏名	事業所	所在地
委員長	玉城 幸志	(株)残波ゴルフクラブ	宇座 1133
委員	大城 貢	(株)NDアーキテクトン	渡慶次 1184-1
〃	上地 広喜	sweet 株式会社	大湾 356 2F
〃	玉那覇 友也	沖縄ハム総合食品(株)	座喜味 2822-3
〃	名嘉元 邦子	笑い福い	伊良皆 125
〃	大城 亮武	整体整骨院 Link	喜名 2346-11
〃	廣瀬 真人	星野リゾート	儀間 474
〃	又吉 弘子	読谷山花織事業協同組合	座喜味 2974-2
〃	佐久川 政源	古堅モータース(株)	古堅 722-2
〃	吉山 盛章	創明館プリントステーション	座喜味 2694-3
〃	玉城 靖	(有)比嘉酒造	長浜 1061
〃	比嘉 幸夫	読谷村商工会前事務局長	喜名 2346-11
担当三役	當山 勝則	(株)旅らぼ沖縄	喜名 2346-11
事務局	松川 博明	読谷村商工会	喜名 2346-11

⑩ 商工会設立50周年イベント事業委員会

委員会役職	氏名	事業所	所在地
委員長	小倉宏樹	(特非)よみたん自然学校	高志保1020
委員	森岡航	(株)森岡産業	座喜味3156
〃	比嘉兼作	(有)比嘉酒造	長浜1061
〃	天久隆一	天久テクニカル自動車商会	波平908
〃	比嘉良昭	(有)良政産業	大木470
〃	菅原裕一	ロイヤルホテル沖縄残波岬	宇座1575
〃	島袋孝子	デイサービス生きる家	都屋443
〃	知花勇男	キア工業	波平2149-4
〃	玉城政幸	(株)山中組	長浜1750
〃	比嘉等	一般社団法人読谷村観光協会	喜名2346-11
〃	湧田大介	焼肉ホルモンのぼり苑	伊良皆375
〃	上地英美利	Tender Heart	比謝61
担当三役	仲宗根朝治	(株)FMよみたん	喜名2346-11
事務局	友利慎吾	読谷村商工会	喜名2346-11

写真でみる 50 周年の歩み

(昭和 48 年～令和 5 年)



S49. 設立当初事務所



S50. 商工会事務所（役場の一角）



S51. 通常総会



S51. 経営懇談会



S52. 青年・婦人部設立総会



S52. 職域野球大会



S52. 職域野球大会 2



通常総会（初代安田会長）



●●●



●●●



●●●



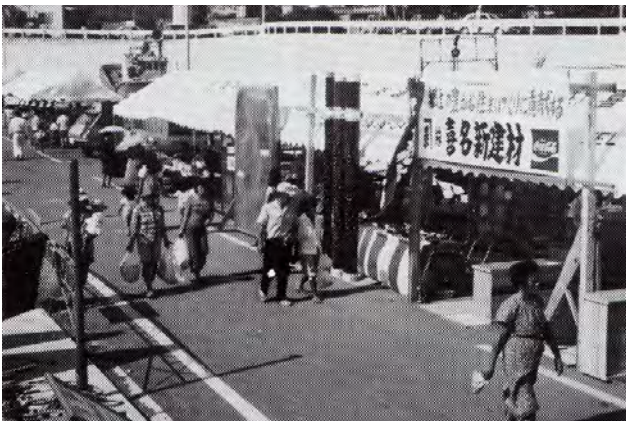
●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●





●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



設谷村商工会 青年部・婦人部 北海道旅行記念 平成7年1月14日(トリスナヌ修道院)

●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



●●●



